

静岡産業大学・中期計画＜2020年度～2024年度＞(2023/04/1ver)／アクションプランシート（スポーツ科学部）

スポーツ科学部	基本方針	2022年度スポーツ科学部は組織の能力向上と確立を図り、多角的に準備を行い2024年の完成年度を無事に迎えることを基本方針とする。 ①スポーツ科学部運営委員会、将来構想ワーキンググループ、各委員会活動を通して、経営学部と協働してスポーツ科学部の組織的活動を確立する。 ②半期ごとのPDCAサイクルを基本として各課題の可視化を図る。 ③磐田市や静岡県などとの地域連携を積極的に進める。				
	最重要事項	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
	<p>1. 2024年度入学者の安定的確保</p> <p>1)入試制度を確実に実行し、定員120名を確保する</p> <p>2. 学生確保のための広報・募集活動の実施</p> <p>1)入試広報における、Web、SNS等デジタル情報の提供の充実を図る</p> <p>2)入学者実績高校への訪問を行う</p> <p>3)静岡県内外や女子高校生への広報活動を積極的に行う</p> <p>4)スポーツ科学部と経営学部の差異を明確に示すよう広報に努める</p>	<p>1.2.</p> <p>2023年度は155名の入学者がおり、そのうち県外からは45%であった。</p> <p>2024年度入試においては、県外者・女子の増員に努め、12月中の定員確保を目標にする。</p> <p>スポーツ科学部と経営学部の差異化を図った入試広報が必須であり、最大限のwebの活用やオープンキャンパスや出前授業の工夫も図る。</p>	<p>1.2.</p> <p>2024年度入試の12月中の定員確保に向けて、オープンキャンパス（以下、OCと略す）参加者確保に努める。6月・7月は順調である。</p> <p>年内中に定員120名の確保を最低目標に掲げている。さらには、中期的展望に立って、定員数の安定的確保に向けての施策を検討している。</p> <p>2023年度入試広報は、上半期から夢ナビや映像のweb発信ができた。さらに、12月9日開催予定の「静岡産業大学ダンスのタベ：ダンスダンスダンス」の出演高校等も含め、特に女子高校生への入試広報を行った。</p> <p>学生募集にとって有効な入試広報とは何かをめぐって入試委員会を中心に検討を重ねている。特に県外生の割合が増加しているところから県外高校への周知をさらに強化し、指定校枠の増枠やオンラインでの模擬授業の拡大を諮っている。</p> <p>女子学生の占有率が低く約20%程度で推移しているところから、これを30%に近づけるようにHPや学部リーフレットなどでも対応を考えている。</p>		<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●副学部長（和田）</p> <p>△入試課（齊藤）</p> <p>△広報・メディア課（佐野）</p>	

	最重要事項	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<p>3. 認証評価の準備</p> <p>1)4年間のアフターケアに十分応えられるような実績評価の基準作成と評価法の策定を図る</p> <p>2)教員各自が「教育・研究・大学貢献・社会貢献」を計画的に立案する</p>	<p>3.</p> <p>文科省のアフターケアへの対応は2022年度の“履修状況報告書”において、指摘事項はなかった。2023年度においても昨年と同様に作成・提出する。</p> <p>2022年度に実施された認証評価に関しては、施設を活かした授業展開や冠講座が評価された。2023年度の冠講座では静岡ブルーレヴズが加わるため、さらに多様な実学教育を実施する。</p> <p>教員人事評価については、学部長面接を4月早々に行い、教員各自の2022年度の振り返りと2023年度の計画立案の契機とする。</p>	<p>3.</p> <p>文科省のアフターケアへの対応は2023年度の“履修状況報告書”を提出した。2023・24年度の経営学部の入学生の減少が、アフターケアに影響しないかを検討している。</p> <p>教員各自の研究業績を上げ、カリキュラムポリシーの達成が学部の社会的評価に繋がると考え、対応中である。</p> <p>2022年度の認証評価で高評価だった、施設を活かした授業展開や冠講座は引き続き積極的に実施した。後期からは、初めて静岡ブルーレヴズの冠講座が加わり、さらに多様な実学教育が実現できる。</p> <p>教員人事評価は学部長面接を4月早々に行った。教員は2023年度の計画に従い、実践している。</p>		<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●副学部長（和田）</p> <p>●事務局次長（甲斐）</p> <p>△企画調整室（川合）</p> <p>△総務課（山田）</p>	
	<p>4. 教育の質保証とその可視化</p> <p>1)教育課程の準備状況の点検と確立を図る</p> <p>2)3ポリシーの組織的浸透を図る</p> <p>3)在学生の単位修得状況の把握と離学者対策を図る</p> <p>4)学業と運動部活動の両立を図るよう、教職員が一体になって支援する</p>	<p>4.</p> <p>“教育の質保証とその可視化”に関しては、2021年度の準備状況点検・3ポリシーの浸透を図った実績を受け、2023年度も継続して行う。特に、全教員がアクティブラーニングを導入した授業実践を工夫し、FDや全学研究発表会やラーニングメソッド研究会の参加を通して、授業改善に励む。</p> <p>学生の単位修得状況やPROGの結果については、教務やゼミ担当教員を中心に把握し学生にフィードバックを行い、離学者対策を図る。また、教育課程における履修モデル「スポーツ科学実践・健康づくり・スポーツ教育・スポーツ経営」の具体的な科目事例を、2022年度に学生に提示したのを受け、就職に繋がるような学びを支援する。さらに、学業と運動部活動の両立を図れるよう、基礎ゼミやスポーツ振興部の支援を受け状況把握に努める。</p>	<p>4.</p> <p>“教育の質保証とその可視化”に関しては、各教員が3ポリシーを確認し、アクティブラーニングを導入した授業を実践した。後期に開催されるFDや全学研究発表会やラーニングメソッド研究会に積極的に参加し、授業改善に励む。</p> <p>学生の学力保障という問題は、かなり難しい課題であると考えている。思考力を高め、社会に通じる基礎的学力の保障に重点を置くべきと考える。</p> <p>部活動中心の考え方を脱し、学業中心の考え方を、学生だけでなく、教職員においても意識改革の必要性がある。</p> <p>ディプロマポリシーの達成は、今後の学部のあり方に大きく影響を与えていくものと考え、初めての卒業生を迎えるにあたって重要視していく。</p> <p>学生の単位修得状況やPROGの結果の周知、教育課程における履修モデル「スポーツ科学実践・健康づくり・スポーツ教育・スポーツ経営」の具体的な科目事例の提示を行った。特に3年生に多い離学者対策として、ゼミ担当教員を中心に学生の相談にのるようになった。</p>		<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●副学部長（和田）</p> <p>●教務委員長（徐）</p> <p>●スポーツ振興部部长（広岡）</p> <p>△教務課（中村）</p> <p>△スポーツ振興部（三浦）</p>	

項目別アクションプラン					
	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<教育>				
	1. 教育方法ではonlineと対面授業のバランスを図ると共に、情報機器を有効活用した授業を実施し、情報に強い学生を育成する。	1. 教育方法では対面授業を主としているが、遠隔とのバランスを図り、情報機器を有効活用し情報に強い学生の育成に励んだ。		◎学部長（高橋） ●教務委員長（徐） ●教職委員長（佐藤） ●学生委員長（宮崎） ●スポーツ振興部部長（広岡） △スポーツ振興部（三浦） △総務課（甲斐） △学生支援課（井川） △教職委員会・教務課（中村）	
	2. 30単位の学部間履修を周知し、就職を意図した学びを推進する。	2. 30単位の学部間履修を在学生オリエンテーション等で周知し就職を意図した学びを推進した。			
	3. スポーツ科学部において実施される授業科目において、各教員の授業内容を共有し差異化を図る。	3. スポーツ科学部で定期的に行っている自由討議の機会を利用して、近々、授業内容の共有と差異化をテーマにした議論を実施する予定である。			
	4. 施設及び設備の点検及び充実と管理体制の確立を図るため、関係部署(教務・総務・スポーツ振興部)との連携を密にして、スポーツセンター倉庫内の点検整理を2023年度中に終了する。 スポーツ施設修繕計画については「整備改革WG」が中心になり、陸上走路の改修を行う。 また、トレーニングルームやテニスコートの修繕計画を立案する。	4. 施設・設備の管理について、第1・第2スポーツセンター内倉庫の点検整理を上半期のうちに行った。スポーツ施設修繕計画については「整備改革WG」が中心になり、6月に50m陸上走路の改修工事の指名入札が行われ業者が決定した。9月中の施工を予定している。 静岡産業大学施設維持・管理検討委員会（仮称）を立ち上げ今秋から検討を開始する予定としている。委員会のメンバーは各施設等に関連する教員や事務職員のほか、公平かつ客観的な視点を求め、外部委員を加えることを検討している。			
5. 主任アドバイザー制度を継続し、1～3学年まで担当教員を配置する。	5. 主任アドバイザー制度を継続し、1～3学年まで担当教員を配置した。				

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
	6. 教職課程の指導に関しては、入学前の教員養成キックオフカンファレンス、在学時の教職ランチミーティング、特別支援学校も視野に入れた支援に努める。	6. 教職課程の指導に関しては、入学前の教員養成キックオフカンファレンス、在学時の教職ランチミーティング、特別支援学校も視野に入れた支援に努めた。下半期には教職ゼミを開始し、教員採用試験に向けて準備する。 入学予定者を対象としたキックオフカンファレンスを実施し、入学後の教職課程の学修への動機づけの準備を行った。また、1年生を対象として毎月1回「教職ランチ」を開催、教職課程担当教員からの話題提供を行い、教員採用試験に向けた動機づけと継続的な学習習慣の形成を図った。さらに、23年度後期から教員採用試験突破塾を新規に開講する。			
スポーツ科学部	<研究> 1. 紀要第8巻の編集及び発刊は、学部付置のスポーツ教育研究センターが担当する。全教員の投稿を目指す。 2. 編集委員会機能や査読の厳格化は2022年度でほぼ確立したので、2023年度も同様に行う。 3. 特別支援経費の申請・決定・使用期間が単年度であるため不具合が生じており、少なくとも2年継続研究の可能性を探る。	1. スポーツ科学部の紀要第8巻1号への投稿は9本あり、編集は順調に進行している。 2. 編集委員会機能や査読の厳格化は継続して実施する。 3. 特別支援経費の受諾は6件なされた。		◎学部長（高橋） ●スポーツ教育研究センター（宮崎） △いわた総合スポーツクラブ事務局（川合）	
	4. 倫理委員会は外部審査員も加えて年に2回online開催とし、倫理規定をクリアした論文の掲載を促進する。	4. 倫理委員会は外部審査員も加えて、上半期は7月に実施した。		◎●学部長・研究倫理委員会（高橋） △総務課（甲斐）	
	5. 科学研究費の獲得を目指す。 特に50歳代以下の全教員は申請する。 さらに、外部資金による研究費の獲得を目指し申請を行う。	5. 科学研究費の新しい獲得は1件あった。2024年度申請は9月11日〆切であり、50歳代以下の教員は申請する。 東アジア文化都市2023静岡県地域連携助成を受けた。		◎●学部長（高橋） △総務課（甲斐）	

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	6. SSUスポーツ・健康科学セミナー開催は2022年度は好評であり、2023年度もZoomウェビナー型セミナー開催を行う。その際、高校の生徒や教員、社会人にも情報提供し、入試広報とも連動して行う。	6. 下期に開催するセミナーの企画立案を推進した。多くの方に参加いただけるように、Zoomウェビナー型の開催を計画している。 スポーツ・健康科学セミナーは、下半期を中心にZoomウェビナー型での開催を行う予定である。2022年度と同様、高校の生徒や教員、社会人にも情報提供し、入試広報とも連動して行う。		◎学部長（高橋） ●スポーツ医科学研究センター（中井） △教務課（中村）	
	7. 全教員は学会活動（論文投稿・発表・役員）や研究業績の蓄積に励む。10月の「トレーニング科学会」開催には学部を挙げて協力する。地域やプロスポーツ団体等の研究協力を積極的に行う。	7. 学内で学生を対象とした調査、測定を実施した。 近隣地域の高齢者の健康に関する研究活動に着手した。 全教員は学会活動（論文投稿・発表・役員）や研究業績の蓄積に励む。10月の「トレーニング科学会」開催には学部・地域・プロスポーツ団体・企業等の研究支援協力を積極的に行う。		◎学部長（高橋） ●スポーツ教育研究センター（宮崎） ●スポーツ医科学研究センター（中井） △教務課（中村） △いわた総合スポーツクラブ事務局（川合）	
	8. スポーツ科学部付置のスポーツ教育研究センター及びスポーツ医科学研究センターの活動を推進する。これまでの「紀要・ニュースレター発刊・セミナー開催」はもとより、センターが中心となった共同研究の可能性を探る。	8. スポーツ選手のサポートに関する調査についての共同研究を検討している。 スポーツ教育研究センター担当の「紀要8巻1号」の発刊作業は順調に行われた。		◎学部長（高橋） ●スポーツ教育研究センター（宮崎） ●スポーツ医科学研究センター（中井） △教務課（中村） △いわた総合スポーツクラブ事務局（川合）	
	<入試> 1. 2023年度入試では、指定校とスポーツプレゼンテーション入試における合格者増が顕著であり、2024年度入試も継続して維持する。また、スポーツ推薦で入学した学生のGPAが高く、スポーツプレゼンテーション入試合格者は低い傾向にあるため、入学から卒業までの傾向を分析する必要がある。入試・広報の確実な実施のため、教職員（入試委員・入試課・広報メディア課・参与・受験生募集検討ワーキンググループ・学生募集戦略会議等）が一体となった会議を開催し、前例に捕らわれずスピーディな企画・実行を行う。 2. オープンキャンパス（講演・体験授業・歓迎パフォーマンス・動画配信等）、出前授業・大学説明会（学生の動向や就職傾向）等、対象・時期に応じて、方法を柔軟に変更する。 3. 入学定員120名以上150名程度を確保するとともに、女子学生入学率を上げる努力をする。	1. 2024年度入試においても、指定校とスポーツプレゼンテーション入試の合格者増に励む。また、スポーツ推薦で入学した学生のGPAが高く、スポーツプレゼンテーション入試の学生のGPAは低い傾向にあるため、入学から卒業までの傾向を継続して分析する必要がある。 2. オープンキャンパスの工夫（講演・体験授業・歓迎パフォーマンス・動画配信等）、出前授業・大学説明会（学生の成績や部活の状況の伝達）等を通し、受験生確保に繋げるように、努力した。 3. 入学定員120名以上の12月末までの確保を図り、県外並びに女子の入学率を上げる努力をする。		◎学部長（高橋） ●副学部長（和田） △入試課、高大連携・接続G（齊藤） △広報・メディア課（佐野）	

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<p><広報></p> <p>1. 大学ホームページ（動画配信含む）、各メディア、広報誌への情報発信を積極的に行う。 磐田キャンパスでは、スピーディな広報活動を行うため、業者委託を含め、入試広報の協働と棲み分けを明確にする。</p>	<p>1. 大学ホームページ（動画配信含む）、各メディア、広報誌への情報発信を積極的に行うとともに、新たな業者委託を通じスピーディな広報活動を行った。</p> <p>他大学のHPなどを参考に、内容の充実はもとより、見せ方の工夫などの検討をしている。</p> <p>部活動の実績はもとより、教職員の活躍や業績など、あらゆるメディアを通じて積極的にかつ平等に情報発信していくことが重要である。</p> <p>大学の新たなイメージ作りを、お金を掛けて専門家に委ねる戦略も必要かと考える。</p>		<p>◎学部長（高橋） ●副学長（丹羽） ●副学部長（和田） △広報・メディア課（佐野） △高大連携・接続G（齊藤）</p>	
	<p><地域貢献></p> <p>1. スポーツ・健康科学研究セミナー開催。 地域の教育委員会（夜間中学や中学・高校への静岡産業大学学生ボランティア含め）や市民団体との連携による地域への啓蒙活動。 「ジュビロ飯」の普及・推進。 スポーツプラットフォームや新スポーツの創出の推進（本学部・磐田市・ジュビロ磐田・静岡ブルーレヴズ・アザレアセブン・ポニータ・プレス浜松）。 広域レベルの各種活動との連携及び貢献を目指す。</p>	<p>1. 磐田市社会福祉協議会と連携し、高齢者の健康増進について、講演を行った。</p> <p>静岡県内の部活動支援ボランティアや学校体験活動、青少年育成活動のボランティアに関する情報を収集・教職センターに掲示等を行い、学生の参加を促し、ボランティア活動を行った。来年度、磐田市内の公立小中学校で母校ではない教育実習を行う学生を中心に、教育実習前に学校体験活動を受け入れて頂けるよう、教育委員会との調整を行った。</p> <p>下半期のスポーツ・健康科学研究セミナー、10月28、29日の「トレーニング科学会」、11月25日の「シンスポーツフェスティバル in いわた」、12月9日の「静岡産業大学ダンスのタベ」開催準備を進めると共に、地域の教育委員会（夜間中学や中学・高校への静岡産業大学学生ボランティア含め）や市民団体との連携を行った。</p>		<p>◎学部長（高橋） ●スポーツ振興部長（広岡） ●スポーツ教育研究センター（宮崎） ●スポーツ医科学研究センター（中井） ●教職センター長（松永） ●総合研究所所長代理（小泉） △スポーツ振興部長（広岡） △いわた総合スポーツクラブ事務局（川合） △教務課・教職委員会（中村） △総合研究所（山本）</p>	

2023年度計画アクションプラン		上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<p><就職></p> <p>2023年度は新3年生の企業へのインターンシップ、スポーツ選手のデュアルキャリア、教員採用も含め、学生の就職への啓蒙活動を積極的に行う。就職率確保では特に、鷲崎理事・学長補佐・キャリア支援課と連携し西部地区を中心に企業を回る。</p>	<p>2023年度は新3年生の企業へのインターンシップ、スポーツ選手のデュアルキャリア、教員採用も含め、学生の就職への啓蒙活動を積極的に行う。特に就職率確保では、鷲崎理事・学長補佐・キャリア支援課と連携し西部地区を中心に企業を回った。</p> <p>鷲崎理事、学部長、就職委員長、キャリア支援課等が定期的に集まり、状況共有を行った。スポーツ科学部生の進路を7つに分け、現状の希望先や要望などを調査した。それらをもとに、面接指導などを行ってもらうよう、教員に依頼した。</p>		<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●就職委員長（江間）</p> <p>△キャリア支援課（池ヶ谷）</p>	
	<p><大学運営></p> <p>1. 磐田キャンパスの経営学部と互いに協力・補完し合う組織的な学内運営を図り、入学者確保、ブランド力向上、就職率確保等の相乗効果を目指す。特に、「スポーツ経営」の専門領域や教員配置について、経営学部がスポーツ科学部に置くのかを明確にする。</p> <p>2. ランチミーティング（学長・両学部長）は開催せず、スポーツ科学部長が藤枝キャンパスに行った折に、定期的に学長に面談する機会を作る。</p>	<p>1. 採用人事における「スポーツ経営」の教員配置について、経営学部と協議を行った。また、完成年度後の将来構想については、将来構想ワーキンググループが主導して案を提示した。</p> <p>2. ランチミーティング（学長・両学部長）は開催せず、スポーツ科学部長が藤枝キャンパスに行った折に、定期的に学長に面談する機会を作った。</p>		◎●学部長（高橋）	
将来構想					
項目	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
<p>1. 完成年度（2024年度）の教員人事計画策定（女性教員確保）</p> <p>・完成年度に必要な教員数は13名であり、うち教授は7名である。</p> <p>2. 将来構想ワーキンググループ（WG）開設</p> <p>・2022年度より開設し完成年度に向けて構想を練る。</p>	<p>1. 完成年度（2024年度）の教員人事計画策定については、2023年度に女性教員を確保できた。さらに、2023年度中に教授昇進を計画する。</p> <p>2. 将来構想ワーキンググループ（WG）を強化するため、下部組織に教務と就職の担当者を加える。</p>	<p>1. 完成年度（2024年度）の教員人事計画策定については、2023年度に女性教員を確保できた。さらに、2023年度中に教授や講師の昇進を計画した。</p> <p>2. 将来構想ワーキンググループ（WG）を強化するため、下部組織に教務と就職の担当者を加えた。</p>		<p>◎副学長（田畑）</p> <p>●学部長（高橋）</p>	
<p>3. 南交流センター再開発（200mトラックの設置等）の構想</p> <p>・2021年度も磐田市に相談したが、継続審議する。</p>	<p>3. 南交流センター再開発（陸上競技場等）の検討は継続する。</p>	<p>3. 南交流センター再開発（陸上競技場等）の検討は継続する。</p>		<p>◎●学部長（高橋）</p> <p>△総務課（甲斐）</p>	